

令和6年2月16日（金）

調布市立若葉小学校

第2学年4組33名

1. 題材名 「何でも食べて元気アップ大作戦」

2. 題材設定の理由と目標

第2学年の児童は、給食をととても喜んでおり、進んでおかわりをする子もいる。しかし、野菜や魚の残菜が多く、好きなものだけをたくさん食べたり、苦手なものは全く手を付けなかったりする姿がある。本題材は、好き嫌いなく何でも食べることで、毎日を健康に過ごせることを知り、苦手なものも少しでも食べてみようという意欲をもたせたいと考え設定した。苦手なものを食べるには、何らかの工夫や努力が必要である。家庭へのインタビューを通して、我が子が健康に育つよう、保護者が様々な工夫をしてくれていることを知るとともに、そうした工夫によって、苦手なものも食べられるようになることに気付かせたい。また、何でも食べようという意欲につなげていきたい。

【食育の視点②】健康に良い食事のとり方を考え、自らの健康を管理していく力を身に付ける。

3. 評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
食べ物には、3つのはたらきがあることを知り、何でもバランスよく食べることの大切さが分かる。	苦手な食べ物も、工夫することで味や食感が変わることが分かり、自分にもできそうな工夫・保護者をお願いしたい工夫を選ぶことができる。	「何でも食べて元気アップ」するために、苦手なものも食べてみようという意欲をもつことができる。

4. 研究主題に迫るための具体的な手だて

【「わかる」ための手だて】

① 食品の3色分け

「好き嫌いせず何でも食べる」ことの大切さを理解するために、食品を赤・黄・緑の3色に分け、具体的にどのような働きがあるのかを知る。また、普段食べているものの中にはたくさんの栄養が含まれており、それが自分のエネルギーや成長に直接影響すること、それらをバランスよく食べると体に良いことに気付かせたい。

【「かかわる」ための手だて】

② 各家庭や給食の「苦手なものを食べてもらうための工夫」の調査と共有

各家庭が日々行っているであろう「苦手なものを食べてもらうための工夫」を、インタビューの形で児童に聞き取らせる。事前に保護者に協力依頼を行い、どの児童にももれなく「調べて、こんなことが分かった」と達成感をもたせたい。調べた結果は発表・共有し、「クラスみんなの発見」として価値付けるようにする。また、給食で行われている「苦手なものを食べてもらうための工夫」についての栄養士のインタビュー映像を見せることで、家庭だけでなく給食でも「苦手なものを食べてもらうための工夫」がされていることを知り、その共通点を見付けさせたい。

【「はい、できた」のための手だて】

③ 苦手なものを食べられるようになるための目標の設定

みんなで調べた各家庭の「苦手なものを食べてもらうための工夫」や、栄養士が行っている工夫の中から、児童一人一人が、自分にもできそうな工夫・保護者にお願いしたい工夫を選んで、苦手なものを食べられるようになるための目標を立てる。元気アップ大作戦として楽しく掲げることで、励まし合いながら無理なく行えることを期待している。

5. 単元学習計画【2時間扱い】

時	学習目標	学習内容・活動
1	食べものの3つのはたらきについて知ろう。	<ul style="list-style-type: none"> 食べ物には3つのはたらきがあることを知り、好き嫌いせずに何でも食べることで、元気に過ごせるということを知る。 苦手な食べものを献立に取り入れる場合、各家庭でどのような「苦手なものを食べてもらうための工夫」をしているのかインタビューする活動について知り、その内容や方法を理解する。
2 本 時	苦手なものを食べるためのくふうを見つけよう。	<ul style="list-style-type: none"> 各家庭でインタビューしてきたことをグループで発表し合う。 苦手なものを献立に取り入れる場合の、各家庭や給食室での工夫について知る。 苦手なものを食べてみるために、たくさんの工夫の中から、自分にもできそうな工夫や保護者にお願いしたい工夫を選ぶ。

6. 本時の学習（2／2時間目）

①本時のねらい

保護者にインタビューしてきた内容を共有する活動を通して、自分が苦手なものを食べるための工夫を見付けることができるようにする。

②展開

学習活動	◎主な発問 ・児童の思考の流れ	・指導上の留意点 ☆評価
1. 前時の学習を振り返る。	<ul style="list-style-type: none"> 前時の振り返りから、食べ物によって働きが違うことを振り返り、バランスよく食べることが体に良いことを確認する。 自分の苦手なものを把握し、各家庭の「苦手なものを食べてもらうための工夫」を知るために、インタビューしたことを確認する。 	
2. 本時のめあてを確認する。	苦手なものを食べるためのくふうを見つけよう。	
3. 保護者にインタビューした内容をグループ内で共有する。	◎「苦手なものを食べてもらうための工夫」について、インタビューしてきた内容を短冊に書きましょう。	・前時のワークシートを見て、インタビューした内容をそのまま短冊に書けば良いことを伝

	<p>◎書いた短冊を友達と見せ合いながら、インタビューしてきた工夫について伝え合しましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・細かく切って好きなものに入れてくれるよ。 ・苦手なものも一口は食べるように言われているよ。 ・苦手な野菜の代わりに他の野菜を多く用意してくれるよ。 ・小さいころにいろいろな味に慣れさせてくれたから、苦手なものはないよ。 	<p>える。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・少人数で自らのインタビュー内容を伝えさせたり、各家庭の様々な工夫に触れさせたりする。 ・各家庭の工夫について、子どもたちが肯定的に受け止め合うように指導する。
<p>4. 学級全体で共有する。</p>	<p>◎自分のインタビューしてきた工夫や友達のインタビューしてきた工夫の中で、学級の全員に紹介したいことを教えてください。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「細かく切る」と「カレーに入れる」のは、食べやすくするための工夫だね。 ・「好きなものと食べる」や「一口は食べる」と答えた人はどちらも頑張って食べようとしているね。 	<ul style="list-style-type: none"> ・発表者以外にも似た内容を話した児童がいるか確認し、短冊をまとめて黒板に掲示する。 ・多くの工夫に触れさせたり、家庭で似たような工夫がされていることに気付かせたりする。
<p>5. 給食ではどのような工夫がされているのかを栄養士によるインタビュー映像を通して知る。</p>	<p>◎栄養士のインタビュー映像を見ながら、給食の「苦手なものを食べてもらうための工夫」を見付けましょう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・〇〇さんが発表した工夫と似てるね。 ・昨日の魚はぱりぱりで食べやすかったよ。 ・ポテトチップスの入ったサラダは残りが少ないよね。 ・給食のことについて放送があるとわくわくする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・給食の工夫を知ることを通して、実際に食べた献立を思い出させたり、各家庭の工夫と関連させて考えさせたりする。 ・給食で、野菜・魚を食べやすくするための工夫と各家庭での工夫とが重なる部分もあることを意識させる。 <p>給食の工夫</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもたちが苦手なものに好きな味のものを混ぜる。 ・料理の見た目を変えて、苦手なものが気にならないようにしている。 ・その日の献立や栄養など、食べ物について知らせている。 </div>

<p>6. 本時で知った工夫の中から、自分にもできそうな工夫・保護者をお願いしたい工夫を選ぶ。</p>	<p>◎グループ活動や発表、インタビュー映像から学んだ工夫の中から、自分にもできそうな工夫・保護者をお願いしたい工夫を選びましょう。</p>	<p>☆苦手な食べ物も、工夫することで味や食感が変わることが分かり、自分にもできそうな工夫・保護者をお願いしたい工夫を選ぶことができたか。 【思・判・表】(ワークシート)</p>
<p>7. 授業の振り返りをする。</p>	<p>・何でも食べて、元気アップしたいという意欲をもつ。</p>	<p>☆「何でも食べて元気up」するために、苦手なものも食べてみようという意欲をもつことができたか。 【主】(ワークシート)</p>

7. 板書計画

移動できるホワイトボード(裏にスクリーン)

何でも食べて元気アップ大作せん

めあて

にが手なものを食べるための工夫を見つけよう。

食べやすく料理する

細かく切る

カレーに入れる

サラダにポテチを入れる

食べ方をくふう

一口は食べる

好きなものといっしょに食べる

食べものについて知る

えいようやおいしさのひみつを知る

きれいなものがない人

いろいろな味になれてきた

自分にもできそうな工夫・お家の人におねがいたい工夫を1つえらぼう

ほかの方ほうでえいようをとる

べつをやさいを多く食べる

裏 スクリーン

栄養士のインタビュー映像